



予算審査特別委員会の様子

**【予算審査特別委員会】**  
委員長 西川 誠之  
副委員長 笠原 久恵  
委員 近藤 美保  
委員 戸辺 滋  
委員 西尾 段  
委員 中川 弘  
委員 小田 仙

# 平成31年度予算案を審議

## 一般会計予算額は約600億6700万円

平成31年度一般会計予算については、7人で構成する予算審査特別委員会が2月22日に設置され、3月4日から6日および8日の4日間にわたり審査が行われました。そして、3月15日の本会議において、賛成多数をもって、原案のとおり可決されました。本会議における一般会計予算に対する各党派等の意見は次のとおりです。

### 各党派等からの意見表明

### 反対 日本共産党

反対の理由は、①「母なるなら、流山市。」など巨大広告だけで10年間で6800万円を投入しても、実態が伴っていません。学校・児童保育の適正規模化や子どもの学習支援の枠拡大など、全国的に非常識な施策を改善すべきです。②植えてもすぐ枯らす道路植栽管理費の1億3千万円に加え、地元が未承認の道路植栽1200万円を予算化する一方、はしか予防接種補助が廃止、奨学金拡大も国保料負担軽減も取り組まず、救急医療の支援は近隣市で最も手が抜かれています。くらし第一に優先順位を切り替えるべきです。③児童虐待相談件数2500件に増え、専属の正規職員はわずか2人。行政のストリム化は市民を支える力を奪い、「自治会任せ」を増長させており、大きな見直しが必要です。④16年間で借金は235億円増やし、積立金は42億円減りました。市民と血の通った財政改革に踏み出すためにも、行政「経営」を根本から正す必要性が高まっています。

反対の理由は、①「母なるなら、流山市。」など巨大広告だけで10年間で6800万円を投入しても、実態が伴っていません。学校・児童保育の適正規模化や子どもの学習支援の枠拡大など、全国的に非常識な施策を改善すべきです。②植えてもすぐ枯らす道路植栽管理費の1億3千万円に加え、地元が未承認の道路植栽1200万円を予算化する一方、はしか予防接種補助が廃止、奨学金拡大も国保料負担軽減も取り組まず、救急医療の支援は近隣市で最も手が抜かれています。くらし第一に優先順位を切り替えるべきです。③児童



### 平成29年度決算審査での議会からの主な指摘要望事項と現在の取り組み状況

指摘要望事項	現在の取り組み状況
諸事情により事業進捗が遅延している名都借跨線橋道路拡幅改良事業および東小学校前通学路道路拡幅整備事業の早期完成に向け、最大限の努力を傾注されたい。	名都借跨線橋道路拡幅改良事業については、今年度から跨線部の歩道橋架設工事に着手し、2021年度までの工事完了を予定しています。東小学校前通学路道路拡幅整備事業は、国道6号線から木の図書館までの区間が完成しています。残りの区間についても、2020年度までの工事完了を予定しています。
中央消防署移転事業においては、早期に施設規模や附帯設備について十分な協議を行い、さらには、新設小中学校の建設などを鑑み、基本計画を策定されたい。	施設規模などを研究し、新設中学校に係る関係課と協議しながら次期基本計画に庁舎建設を位置付けます。
特別支援学級および大規模化に対応した小中学校におけるICT教育環境(PC・タブレットの台数、Wi-Fi環境、高速インターネット)の充実を図られたい。	高速インターネットの整備は、平成29年度に市内全ての学校への整備が完了し、タブレット端末やWi-Fi環境の整備については、今後、計画的な導入を検討しています。
夏休みの学校開放による「子どもの居場所づくり」事業においては、他地域も含めた需要を的確に把握し、必要に応じて拡大を検討されたい。	平成30年度は、実施する校数を変えずに3校とし、他の地域からの需要に配慮し、学区外からの応募も受け付けました。今年度は、需要度の高い家庭の児童を優先し、校数は増やさずに参加定員を増やします。
流山本町・利根運河ツーリズム関連の各種事業において、流山商工会議所・流山市観光協会とのさらなる連携に努められたい。	流山商工会議所とは、流山花火大会などの各種イベント開催およびツーリズム補助金交付審査会や店舗への経営相談を行っています。地域活性化に向けたさらなる協力体制を図るよう努めてまいります。流山市観光協会とは、市の観光PRを進めていますが、今後も観光イベントなどを共同で開催するなど連携を図るよう努めてまいります。
第1庁舎や北消防署など築30年以上の公共施設に対し、必要に応じた改修を計画的に進めるため、詳細診断を行われたい。	第1庁舎や北消防署などの築30年以上の公共施設も含めて、各施設の個別施設計画を策定しました。これに基づき、各施設において詳細診断を実施し、その結果により必要に応じた改修などを計画的に進めます。

※予算の詳細は、平成31年4月1日発行の『広報ながれやま 平成31年度事業特集号』をご覧ください。

### 賛成 流政会

歳入面では、人口増や物流施設稼働で市民税、固定資産税収入が対前年度比約13億2100万円の増額、水道事業からの5億円繰り入れなど、一般財源の歳入確保に貢献したことを評価します。歳出面では、小中学校建設事業や、ついに60億円を超えた保育所運営委託事業、児童館・児童センターの新設など、児童増に伴う施設需要に対応するとともに、きめ細やかな子育て支援の事業についても充実。一方で介護保険特別会計繰出事業の

### 賛成 市民クラブ

約1億1700万円増、後期高齢者医療保険制度事業の約9300万円増額と高齢化などに伴う義務的経費増に対してもしつかり対応しました。児童虐待対策は、ケースワーカーの増員や法に詳しい専門人材を配置し、組織体制の強化を図ること。児童館・児童センターは子育て世代包括支援センターの結節点として中核を担う機能を備え、虐待予防に十分貢献ができる機能の整理を要望し、賛成としました。

賛成の立場です。予算額は過去最大の600億円超えで、新規事業もあります。

1. 井崎市長の政治姿勢「1円まで活かす」により、「民間でできることは民間で」、「職員は少数精鋭」というような、市役所の努力は評価できます。しかし、常にさまざまな情勢が変化し、また、その変化のスピードが速まっているため、予算審査特別委員会の中で指摘・要望した箇所については、今後の事業の中で必ずや必要とされます。
2. 市債の発行額が返済額を上回ってはいるものの、後年度負担の考えに矛盾しないように、誰もが長く住み続ける価値を高める努力や地元で働きやすい環境を整備する努力が評価できます。
3. 「市民の知恵と力が活躍するまち」として、高齢者ふれあいの家、子ども食堂をはじめ、市民活動でも福祉的で公共の利益につながる活動も多いため、より一層の市民活動推進を要望します。